

「山形県の豊かな森林資源を活用した地域活性化条例」

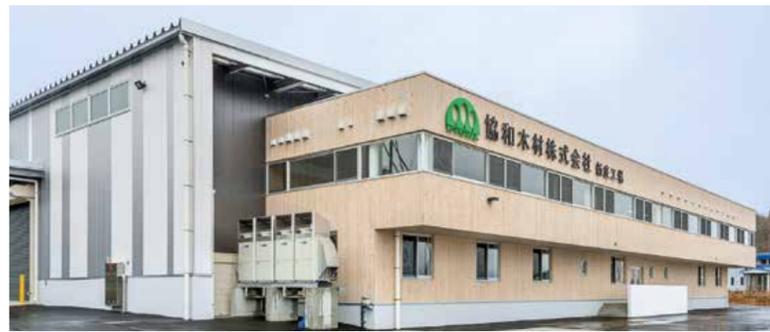
通称「**やまがた森林ノミクス条例**」が制定されました

新庄最上地域の森林の有効活用と森林保全を一体的に推進し、次世代に森林資源を継承していくために取り組んでまいります



協和木材株式会社

協和木材は、森林管理、製品加工、販売管理等、林業全般にかかわった業務を行う会社です。新たに完成した新庄工場は集成材を製造する工場です。無垢材として使用できない木材も集成材加工することで建築材として利用可能になります。



協和木材(株)新庄工場 操業開始



協和木材(株)新庄工場 操業開始
 協和木材(株) 副工場長 菊池 正明氏
 協和木材(株) 代表取締役 佐川 広興氏
 岸 宏一前参議院議員
 協和木材(株) 常務取締役 沼子 眞道氏

岸 宏一前参議院議員をご案内しました。



新庄市に大手集成材工場を誘致することができました。この度の操業に際し、新庄市をはじめ最上地域から多くの採用に結びつき雇用を創出し、働く場の確保を実現いたしました。また、集成材工場の稼働とともに木材の伐採、搬出等の林業関係で働く人の増加が期待されます。

また、今年度から県立農林大学校として、新たに林業経営学科が設置され、県外からも入学者があるなど林業に魅力を感じる若者の増加も見込まれます。

一方、木材の生産は長い年月を必要とし、今私たちが利用している木材は多くが前の世代から手間をかけて育てられた大切な資源であります。無垢材として利用するもの、また、集成材に加工して使うもの、さらに使えないところはバイオマス発電や熱利用などといった活用ルーをしっかりと確立し、良質なもので燃料にするようなことがあってはなりません。

なにより、森林資源は私たちの世代で使うだけでなく、次の世代のために再造林を確実に、資源や環境を守っていくことも不可欠なことです。

12月定例会では、森林に関する条例が制定されました。国土保全や環境、さらには文化の継承といった観点からも林業振興が必要です。

国の林業振興に向けた動きと合わせ、2020年開催の東京オリンピック、パラリンピックを契機に木材を利用拡大しようという流れがあります。

しかし、違法に乱伐された木材を使うことは本末転倒です。そのため、森林管理認証制度を取得した木材の供給が求められています。残念ながら県内では認証制度を取得している事例がありません。県では、民間と連携し森林管理認証制度の取得を推進、支援し、適切な森林管理や木材生産、製品製造、流通を目指しています。

集成材は、幅、厚さ、長さ方向を自由に接着調整することができるため、長大材や湾曲材を製造することが可能です。自由なデザイン、構造計算に基づいて必要とされる強度の部材を供給することができます。



木材はもともと水分を多く含んでいるため、乾燥が不十分だと狂い、割れ、反りが生じてしまいます。そのため集成材はひき板(ラミナ)の段階で天然乾燥に加え、乾燥装置を用いて、含水率を15%以下まで乾燥して、狂い、割れ、反りの防止を図っています。

(日本集成材工業協同組合ホームページより)

山形県立農林大学校の充実



高性能林業機械の操作実習



林業経営学科

4月から入学した15人の学生さんは、様々な分野の学習を行い、林業のスペシャリストを目指しています。今後の活躍が期待されます。



林業経営学科のカリキュラム

科目名	前		後		1学年		2学年		計	
	時間	時間	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数
[講義] 森林・林業概論	16		16	1			16	1	16	1
[講義] 森林生態	16		16	1			16	1	16	1
[講義] 樹木	16	16	32	2			32	2	32	2
[講義] 樹木医	16	16	32	2			32	2	32	2
[講義] 森林情報	16		16	1			16	1	16	1
[講義] 労働安全管理と救急救命	16	16	32	2			32	2	32	2
[講義] 造林・育林I	16	1	32	2			32	2	32	2
[講義] 森林保護	16		16	1			16	1	16	1
[講義] 林業機械	16	16	32	2			32	2	32	2
[講義] 森林計測	16		16	1			16	1	16	1
[講義] 林産	16	16	32	2			32	2	32	2
[実習] 森林管理実習I	140	140	280	7			280	7	280	7
[実習] 林業機械実習I	60	60	120	3			120	3	120	3
[実習] 林産実習I	20	20	40	1			40	1	40	1
[実習] 地域協働研究	20	20	40	1			40	1	40	1
[実習] 先進農業者等体験実習	80	80	160	4			160	4	160	4
[講義] 森林政策	8		8		16	1	16	1	16	1
[講義] 森林環境	16		16	1	16	1	16	1	16	1
[講義] 森林機械保全	16		16	1	16	1	16	1	16	1
[講義] 森林経営		32			32	2	32	2	32	2
[講義] 造林・育林II	16	16	32	2	32	2	32	2	32	2
[講義] 森林路網	16		16	1	16	1	16	1	16	1
[実習] 森林管理実習II	160	160	320	8	320	8	320	8	320	8
[実習] 林業機械実習II	100	100	200	5	200	5	200	5	200	5
[実習] 林産実習II	40	40	80	2	80	2	80	2	80	2
小計	852	788	1640	33	728	23	1640	56	1640	56

～再造林100%をめざして!～

「森林ノミクス」による林業振興



山形県は県土面積の72%が森林です。森林は、木材の供給、美しい自然景観の形成や水源の涵養(かんよう)、県土の保全や地球温暖化の防止など、多面的な機能を持っていて、県民生活に大きく貢献しています。一方で戦後植林された人工林が利用期を迎えていて、豊富な森林資源を循環利用することが喫緊の課題です。森林資源は、適切な時期に伐採し活用するとともに、その跡地に植栽して循環利用することで多面的な機能が持続されます。

緑の循環システム

森林資源の循環を進めるためには、木を植え、育て、収穫する「川上」、製材工場などで加工し流通する「川中」、公共建築物や住宅・一般建築物、または木質バイオマスによる熱や発電で木材を利用する「川下」までを一体的に捉えた「緑の循環システム」を十分に形づくる必要があります。